

7

特集 難治性糖尿病性足潰瘍をどう治す?! 具体的に教えてその治療とケア

シャルコー足ってなに？ 治るの？

早稲田明生
わせだ整形外科 院長

Point

- ▶ 糖尿病患者で足の腫脹を認めたらシャルコー足を疑って!
- ▶ シャルコー足を否定できなければ、total contact cast (TCC) で固定して患肢を保護する
- ▶ 保存的治療中に変形が進行する場合には保存的治療に固執しない

はじめに

どの疾患でも同じかもしれませんが、とくにシャルコー足の治療で大切なのはできるだけ早く診断して治療を開始することです。足が熱感、発赤を伴って急激に腫れてきた場合、皆さんはどんな疾患を考えますか？ おそらく、はじめに頭に浮

かぶのは蜂窩織炎や痛風、深部静脈血栓症などでしょう。また、感染を疑ったならば基礎疾患として糖尿病を思い浮かべるかもしれません。そして、もし糖尿病を疑ったのであればぜひ、シャルコー足も鑑別疾患として考えてください。

シャルコー足とは

シャルコー足は神経が障害されることにより足部・足関節に生じる骨や関節の急速な破壊性の関節症です。糖尿病や脊髄瘍、脊髄空洞症や急性灰白髄炎(ポリオ)などの神経障害性疾患が原因となって発症しますが、近年では原因のほとんどは

糖尿病となっています。急速に進行する関節破壊とそれに不相応に軽度の疼痛が特徴で、進行すると骨・関節の破壊および靭帯の弛緩による足部・足関節の不安定化、および足部アーチの扁平化、後足部の内外反変形な



図1 53歳男性
歩行中に捻挫し足部の腫脹が出現した。疼痛はさほど強くなかったが腫脹が持続するため、6週間後に当院に受診した
A：中足部に著明な腫脹を認めた
B：第2・3中足骨の骨折と第1・2中足骨間の離開を認めた。中足骨にはすでに仮骨が出現している

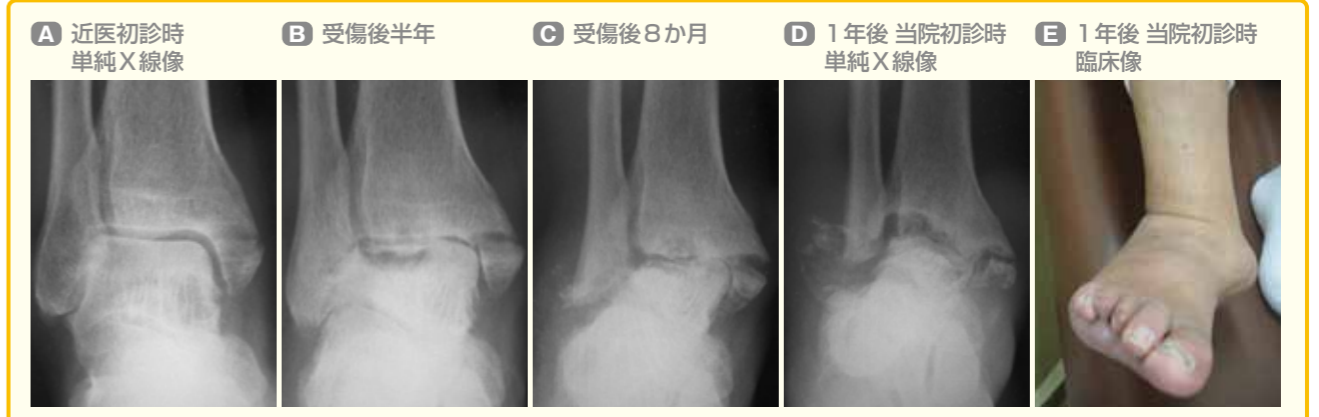


図2 57歳男性
足関節を捻挫したとこのことで近医に受診した。既往に糖尿病あり
A：内果骨折を認めるものの転位はわずかであった。このため保存的治療の方針となったが、とくにギプス固定は受けず荷重は許可されていた
B：骨折線は離開し、距骨の距腿関節の軟骨下骨に骨吸収像がみられる。疼痛の訴えがなかったためこのまま経過観察となった
C：内果骨折部の離開、距骨の陥没は進行し、外反変形が認められる
D・E：内反変形が進行してきたため当科に紹介受診となった。単純X線上、脛骨遠位および距骨関節面の破壊に加え関節周囲には小骨片が認められる(D)。しかし、足関節の腫脹・熱感はなく再生期と判断した(E)

どの著明な変形を生じます(図1・図2)。